■木村伊兵衛　　戦時下に，独自のスタイルを確立して一流写真家となり，<敗戦>後の日本の写真界をリードした。
きむらいへえ
田中正造直訴1901＝　　東京下谷で，帯締め・羽織紐などの製紐業を営む家に，ひとりっ子として生れた。

日露戦争終・1905＝ 4歳：

ｱﾗﾗｷﾞ創刊・ 1908＝ 7歳：三田の慶応義塾幼稚舎に入り，人力車で通う。

韓国併合・・1910＝ 9歳：日暮里に転居。病気のため，下谷の根岸小学校に転校。_おもちゃのボックス・カメラを買う。

明治天皇没・1912＝11歳：

第一次大戦始1914＝13歳：京華商業学校に入学。

在学中，_コダックのカメラなどを買い，写真を楽しむ。

将来の夢は箱屋か役者であった。
ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝18歳：
大暴落・・・1920＝19歳：京華商業卒業後，台湾に渡り，砂糖問屋に勤めるとともに，_写真館に出入りして，写真技術を習得。
原敬首相暗殺1921＝20歳：
水平社結成・1922＝21歳：帰国。
関東大震災・1923＝22歳：製紐業の娘で写真の心得もあった沢井久子と結婚。大震災で新居が倒壊。_写真クラブに入って学んだ後，
護憲三派圧勝1924＝23歳：長男が誕生。_日暮里で写真館を開業。外国の写真集を取り寄せて研究。
治安維持法・1925＝24歳：*写真館が大火で焼失，再建。{日本写真年鑑}創刊号に作品が掲載され，{カメラ}に応募した作品が3等。
円本時代始・1926＝25歳：長女が誕生。
_アマチュア写真クラブを組織して芸術写真の制作もはじめる。
共産党事件・1928＝27歳：
世界恐慌・・1929＝28歳：_写真館を神田に移転。全関東写真連盟の競技会で特選。
海軍軍縮条約1930＝29歳：_花王石鹸広告部の嘱託になり，生活感あふれる広告写真を撮影した。このころに35ミリフィルムを使用するライカA型カメラを自分の手足のように駆使，日常的な光景をスナップする独自の写真スタイルを確立。
満州事変・・1931＝30歳：
五一五事件・1932＝31歳：_野島康三，中山岩太，伊奈信男らと写真同人誌{光画}を創刊，東京の下町に取材した新鮮な作品を同誌上に次々と発表。写真館を日暮里に戻す。
国際連盟脱退1933＝32歳：*名取洋之助の"日本工房"に参加。広告部を退社，写真館は妻にまかせる。作家，批評家の瞬間的な表情をライカで撮影した"文芸家肖像写真展"を開催，従来のものにない，生き生きとした個性の表現に成功。
帝人疑獄事件1934＝33歳：次女が誕生。_"日本工房"を離れ"中央工房"を設立，写真配信のため，内部に国際報道写真協会を設立。
芥川直木賞始1935＝34歳：沖縄に撮影旅行。
二二六事件・1936＝35歳：満鉄満州訪問。_「小型カメラ写真術」刊行。
日中戦争始・1937＝36歳：_LIFEの表紙に作品が使われる。外務省の依頼で，上海，南京を撮影。
健保+総動員 1938＝37歳：_創刊された内閣情報部の{写真週報}の表紙を手がける。
_この間，国際報道写真協会により，写真展の開催，英文写真集の発刊などを行うが，
日米開戦・・1941＝40歳：_{東方社}創立に参加，責任者として，対外宣伝グラフィック{FRONT}の制作に携わり，協会は休会。
創価学会検挙1943＝42歳：三女が誕生。_写真集「王道楽土」。
敗戦・・・・1945＝44歳：_空襲で日暮里の家が焼け，ネガの殆どを失う。敗戦で解散した東方社のスタッフと{文化社}を設立。
新憲法公布・1946＝45歳：
新憲法施行・1947＝46歳：_名取洋之助のサン・フォース・ニュース社に入り，{週刊サンニュース}の写真を担当。

三大事件・・1949＝48歳：_{アサヒカメラ}復刊第一号の表紙を撮影。「六代目菊五郎舞台写真集」。
朝鮮戦争始・1950＝49歳：*日本写真家協会設立と同時に初代会長に就任。"ライカクラブ"顧問。
独立回復・・1951＝50歳：_土門拳とともに，{集団フォト}顧問。ブレッソンの写真を見て，報道写真への情熱を確信。
ﾒｰﾃﾞｰ事件・ 1952＝51歳：_土門拳とともに，写真雑誌{カメラ}月例審査員となる。写真審査で秋田に招かれ，以後20年風俗を撮影。
TV放送始・・1953＝52歳：_{アサヒカメラ}に「東京のまち」を連載。
自衛隊発足・1954＝53歳：初めて，訪欧。_「木村伊兵衛傑作写真集」。
55年体制始・1955＝54歳：再び，渡欧。_日本の写真芸術の地位を高めた功績により，菊池寛賞。「木村伊兵衛外遊写真集」。
国連加盟・・1956＝55歳：_芸術選奨文部大臣賞。{フォトアート}増刊号として「木村伊兵衛読本」。
なべ底不況・1957＝56歳：_{アサヒカメラ}と特別契約，新製品テスト記事「ニューフェース診断室」に参加，没するまで続ける。
ｲﾝｽﾀﾝﾄﾗｰﾒﾝ・1958＝57歳：_日本写真家協会会長を辞し，顧問。

安保闘争・・1960＝59歳：渡欧。

TV宇宙中継始1963＝62歳：_ドイツのフォトキナの「今世紀の大写真家展」で35人の一人に選ばれる。訪中日本写真家代表団団長として，戦後初めて中国を訪問，以後３年続けて訪中。
東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ 1964＝63歳：_{アサヒカメラ}に「新・人国記」を連載し，
大学紛争始・1965＝64歳：三女が死去。_写真批評家協会賞作家賞。
美濃部都知事1967＝66歳：_{アサヒカメラ}に「職人」を連載。
霞ヶ関ﾋﾞﾙ・ 1968＝67歳：_銀座ニコンサロン開設記念に「木村伊兵衛の眼」開催，以後各地へ巡回。紫綬褒章。

ﾄﾞﾙｼｮｯｸ・・ 1971＝70歳：_{アサヒカメラ}に「街角で」を連載。国慶節に招待され，訪中。
沖縄返還・・1972＝71歳：長女が死去。_ニコンサロンで個展「中国の旅」を開催，以後各地へ巡回。
石油ショック1973＝72歳：_中国との国交回復後の初の写真使節団の団長として，訪中。
角栄金脈辞任1974＝73歳：_心筋梗塞のため，自宅で没した。

岩波「日本の写真家8」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，「目でみる日本人物百科」，